

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名 「つぼみ」 つぼみ くいずぶつくを つくろう

2 単元の目標

◎「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。 [思考力、判断力、表現力等C(1)ア]

○文の中における主語と述語の関係に気づくことができる。 [知識及び技能(1)カ]

○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。 [知識及び技能(1)ク]

○つぼみや花について文と写真を結びつけて読む良さを感じ、楽しんで本や資料を読む態度を養う。 [学びに向かう力、人間性等]

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現等	主体的に学習に取り組む態度
・文の中における主語と述語の関係に気付いている (1)カ ・語のまとまりに気を付けて音読している。(1)ク	・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。C(1)ア	・写真と文を結び付けて読む良さを感じ、楽しんで本や資料を読もうとしている。

4 単元について

(1)本単元で行う言語活動と扱う学習材について

本単元では、学習指導要領「読むこと」における言語活動例「ア 時間的な順序や事柄の順序を考えながら大体の内容をとらえること」を受けて、本文や資料の大体の内容を写真と対応させながら読み取っていく活動を設定する。

「つぼみ」は、改訂により令和6年度から教科書に初掲載された教材である。令和2年度版の「くちばし」と比較すると、各事項が問いと答えを含む5文で構成されていることと、文型やページの構成はほぼ共通している。相違点は、「くちばし」では、くちばしの特徴とくちばしの使い方が因果関係となっていたことに対し、「つぼみ」では、つぼみの特徴と開花の仕方が時系列につながっており、掲載されている写真も「つぼみ」「咲く過程にあるつぼみ」「花」の3枚ずつと増えている。つぼみから開花という事柄の順序を理解させることが大切となってくる。また、各事項の特徴を表した「ねじれた」「ほどけた」等の1年生の児童にとって難解な言葉が増えており、動作化や実物の観察などで理解をし易くする工夫が必要となる。

「つぼみ」は、児童にとって初めて出会う説明的な文章である。問いに対する答えという説明的な文章の基本的な構成について学ぶ。本文では、はじめにつぼみの写真と文で「つぼみの特徴」「何のつぼみかの問い」があり、ページをめくると「何のつぼみかの答え」「どうやって

花が咲くか」「どんな花が咲くか」が咲く過程のつぼみと開花した花の写真とともに説明されている。朝顔・蓮・桔梗と同じ文型が3回繰り返されることで、児童はクイズに答えているように興味をもって読み進めることができるだろう。音読を繰り返すことやギガタブの資料や写真と照らし合わせて読むことで、大体的な内容を読み取ることができるようにしたい。

児童は「はなのみち」と「ぶんをつくろう」の学習で、「〇〇が△△した。」のような主語と述語のある文章の音読や視写を行った。本単元では「何のつぼみかの答え」に「これは〇〇のつぼみです。」と、主語となるものが明確となるような文が続いている。「何のつぼみ」を考えながら読むことで、主語となるものを読み取ることや主語や述語を明確にしながら説明することを経験させていきたい。

学習経験が少ない入学したばかりの児童の教材への興味を高めるために、学習の導入では、生活科での栽培活動とのかかわりを大切にする。また、学習のゴールとして、「学習で使ったワークシートを綴ってクイズブックを作る」という活動を設定した。まだひらがなの習得が不十分であるので、ワークシートには「問いの文」「答えの文」を書けることを目標とする。図書室の利用にも十分に慣れていない実態から、今回は本文と教師がギガタブに用意した資料を中心に読み取りを進める。また、教室内に植物の本を手にとれるコーナーを設置し紹介していくことで、本を読むことへも興味を広げられるようにしたい。9月に学習する「うみのかくれんぼ」では、「隠れ方には様々な方法があること」を事柄の順序に沿って読み取る。今回、簡単な形でもよいので、全員がクイズブックを作る活動を行うことで、生き物についての説明的な文章や生き物についての本や図鑑を読むことへの興味を高めていく。

(2)本単元で身につけさせたい力

【身につけさせたい力について】

児童が初めて説明的な文章を読む学習になる。「文を読んで知識を得る楽しさ」を味わい、大体的な内容を読み取ることができた喜びや自信を様々な本を読む意欲につなげていきたい。

「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることを目標としている。「問い」と「答え」の文章構成は、説明的な文章の基本的な構成である。「問い」と「答え」の関係や、答えに続く「どうやって花が咲くか」「どんな花が咲くか」の説明を、写真と照らし合わせながら、事柄の順序に沿って正しく捉えられるようにしたい。本単元では「興味をもって読む」ことを最優先事項とし、ワークシートは、書く負担を減らすようなものを使っていくが、文の終わりには句点を打つことや字形に気を付けて読みやすく書くことについては意識していけるよう丁寧に指導したい。

【手立てについて】

○ギガタブの活用

生活科の観察や図画工作科の作品の紹介などに、ギガタブの発表ノートを活用している。算数の「なんばんめ」の学習でも発表ノートを使い、大切な言葉にアンダーラインを引く活動を行ったところ、線を引くことで問題文の内容を理解できた児童が多かった。また、赤青

鉛筆を持ち替える必要がなくなり、引き間違いに気付いたらすぐに直せることから、活動がスムーズになった様子も見られたため、本単元でもギガタブを活用する。ギガタブの資料には、あらかじめ必要なラインを数か所引いたものも用意し、文に書かれていることをなかなか理解できない児童が参考にできるようにする。ギガタブの発表ノートで提出を受けることで、授業時間内に評価・支援を行うだけでなく、授業後にも適切な評価ができるを考える。単元の後半には、教科書に掲載されていない花のつぼみについて調べ、クイズブックのページを増やしてもよいこととするが、現段階の児童の実態から、植物の本から自分でつぼみから開花までの様子を読み取ることは難しいと思われる。教科書と説明の順序が同じギガタブの資料を用意することで、それまでの学びを生かして、興味をもった花について調べられるようにしたい。「つぼみ」「咲く過程にあるつぼみ」「花」以外の説明が入っている文から、説明に必要な内容を読み取れば、非常に高い読解力があると評価できるが、現段階ではギガタブ上の資料が難解にならないよう配慮する。

○写真の活用

教科書には、それぞれの植物について「つぼみ」「咲く過程にあるつぼみ」「花」の3枚ずつの写真が掲載されている。どの写真がどの文と対応しているか考えさせながら読み進めていく。どの写真がどの文章に対応しているか、クイズ形式で問いかけるなど発問の工夫をしていく。ギガタブで資料を提示する際は、文の役割によって写真を色分けして囲むなど、写真と常に照らし合わせる意識をもたせるようにして、文章の内容を捉えられるようにしたい。

○最後に綴ると、クイズブックになるワークシート

本学級の児童は、「やさいのおなか」などのページをめくると答えが示されているクイズ形式の絵本の読み聞かせを好んでいる。誕生日には自分に関するクイズを作って友達に出題する活動を楽しんでいる。教科書もページをめくると答えがわかる構成であるため、今回は真ん中で2つに折りたためるワークシートを使用し、教科書に載っていないつぼみについてのワークシートも加えた、「自分だけのクイズブック」を作る活動を行う。「本作り」の意識をもたせることで、正確に丁寧に書く意欲を高めたい。

ワークシートだとノートより文字が小さくなったり雑になってしまったりすることが多いため、文字を書くのに適した大きさで、枠やリード線があるものを用意する。文を書く際の理解を助けるために、「あさがお」「はす」「ききょう」「教科書に載っていないつぼみ」を記入するワークシートは形式が同じものを使用するが、段階的にあらかじめ記入しておく言葉や補助線を減らしていくようにする。教科書に載っていないつぼみを記入する際のワークシートは実態に応じて「自分で書くもの」以外に「穴抜き式」を用意する。実際の本のように表紙や奥付を書いて紹介することで、達成感を得られるようにする。児童でも簡単に綴じられるクリップ状の紙ばさみを使用することで、ワークシートを増やしたり順番を変えたりといった作業が簡単になり、クイズブック作りへの意欲が増すだろうと考える。サイドラインを引いた箇所を参考にワークシートに説明を書く際は文頭に色シールを貼ることで、内容を意識して書くことや、文頭を1マス下げるきまりを理解する助けとなるようにする。

○内容を身近にとらえるための動作化や日常での意図的な活動

「ねじれた」「さまざま」「ほうこう」など、児童にとって難解な言葉が本文中には多く使用されている。「雑巾を絞る」「傘を開く」「家の方向を指差す」などの動作することで、言葉の使い方を実感できるようにする。

○語のまとまりやそれぞれの文の役割を正しく読むための音読の工夫

1年生の教科書では、言葉と言葉の間が空いている「分かち書き」がされている。文を読むことが苦手な児童にとっては語のまとまりを捉えて読むことは難しい。音読練習をする際は、「これは」「あさがおの」「つぼみです。」というまとまりで読むことを意識させていく。また、「問い」「答え」の文章を意識できるように、教師と児童、二人組、列ごと、などで、交代で読むなどの音読練習の工夫をしていく。音読練習をする中で、「でしょう。」「これは～です。」などの表現が読み取りのヒントとなることに気付けるよう声かけをしていきたい。事柄の順序を表す「そして」については、まだ理解できる必要はないが、つなぎ言葉として目を向けられるような声かけを行い、つぼみから開花と、時間的なつながりがあることを大まかに捉えられるようにしたい。

(3) (1)(2)の基盤となる言語環境や継続的な取り組み

○ゴールを目指し学習する意欲を高める

5月下旬に「はなのみち」で教師が立てた簡単な学習計画をもとに「音読発表をする」ことをゴールとして学習を進めることを経験した。「つぼみ」でも教師主導で学習計画を立てる。「つぼみクイズブックを作る」という学びのゴールを知らせ、「自分だけの本を作る」という意欲をもって学習に取り組めるようにしたい。ゴールを目指して学習するという流れを理解させ、今後児童が自分たちで必要な活動考えていく意欲につなげていく。毎時間、学習計画表にその時間の振り返りを記入するが、書く負担を軽減するために記号に丸をするなどできるだけ簡単に記入できるようにする。それぞれの時間の学習問題に即した振り返りの観点は学習計画表に明示しておき、振り返りの際にも伝えるようにする。まだ、しっかりと自分の活動を振り返ることは難しい実態であるが、ゴールに向かい自らの活動を振り返り、活動を調整しようとする素地を養いたい。

○他教科や日常の活動と関連させ、理解の深まりを図る

生活科で、朝顔の一人一鉢栽培に意欲をもっていることから、4月末より学級で桔梗・睡蓮を栽培している。朝顔も学級用を一人一鉢栽培より早めに育てている。「つぼみ」と「花」の違いがわからない児童も多いと思われる。実際に自分たちで育てていくことで、興味をもってつぼみのできる様子や花の形を観察できるだろう。

音楽科では、「ひらいたひらいた」を輪になり歌いながら、花が閉じたり開いたりする様子を表現した。活動を想起することで、様々な方向に花びらが広がっていく様子をイメージすることや花に親しみをもつ助けになると考える。

朝顔の栽培に意欲をもっていることから、図画工作科の「絵をかく会」では、あさがおの様子を表現した。絵を描くためにじっくりと観察することで、花やつぼみの特徴に気付くこ

とができたようだ。

雨の日用の遊び道具としてあやとりを楽しんでいる。「ほどけた」などの言葉を日常的に使えるように、日頃から具体的な活動の中で、言葉の使い方を伝えていきたい。

○図書室や団体貸し出しの利用

本への関心を高められるように、読み聞かせを日常的に行うようにしている。図書室も近いことから絵本を好む児童は多いが、生き物の本や図鑑についても図書室や図書館の団体貸し出しの本を身近に置き、日常的に触れられる環境を作りたい。本文を読んだ後、各自で選んだつぼみについて読み取る際は、まだ本から必要な箇所を抜粋することは難しいため、教師が用意した資料を読み取ることとするが、教室に「植物の本コーナー」を設置し、本にも興味をもって読んでいけるようにしたい。

5 単元指導計画（10 時間扱い）

時	学習内容と活動	指導や支援の手立て（◇は評価）
1	○学習計画表をもとに、説明文を読むことや「つぼみ クイズブック」を作ることを知り、伝えたい相手やどんなクイズブックにしたいかを考える。 ○「せつめいぶん」「だい」という言葉を確認する。 ○54 ページの写真や実際につぼみがついた花を見て、つぼみや花について知っていることを話し合う。	○活動の見通しをもてるように学習計画表を用意する。 ○説明文について、「はなのみち」との対比から考えられるよう助言する。 ○クイズブックの見本、絵本（しっぽのはたらき）を見せて、イメージをもたせる。 ○だれにクイズブックを見せたいか話し合わせることで相手意識をもたせる。 ○花やつぼみがたくさんついた花（マリーゴールド）を見て、花とつぼみの違いやつぼみによって状態が違うことを意識できるようにする。 ◇これからの活動に興味をもち、考えを伝えようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】（発言・記述）
2	○「とい」「こたえ」という言葉を知る。 ○本文が前書きと3つのつぼみの説明で書かれていることを話し合う。	○全文を読み、繰り返し出てきた文に目を向けられるようにする。 ○本文をつなげた掲示物を用意し、文全体の構成を視覚的に理解できるようにする。 ○問い→答えの順を意識できるよう掲示物に線を引く。 ○役割読みをする場所をわかりやすくするために段落番号を打つが、段落についてはまだ理解する必要はない。 ◇「読むこと」において事柄の順序を考えながら、

		大体的内容を理解することができる。【思考力、判断力、表現力等】（発言・観察）
3	○あさがおのつぼみの特徴と開花の様子を音読や話し合いを通して読む。 ○役割読みをしながら、それぞれの文のまとめや「とい」「こたえ」について考える。	○説明に必要なことを書き抜けるようサイドラインを引かせる。（「問い」は青、「答え」は赤。） ○「これ」が何を指しているか、写真を選ぶ活動を行うことで、押さえる。 ○写真と対応させて文を読んでいくことを理解できるように写真を囲んだ色に対応する色で「つぼみの特徴」（黄色）、「開き方」（緑）、「花の特徴」（ピンク）で線を引く。 ○文章の大事な言葉をマスに置き換えたワークシートを用いる。文頭に色シールを貼ることで、サイドラインを引いた部分から必要な部分を探す手助けになるようにする。 ○「ハンカチを雑巾のように絞る動作化をする」「閉じた傘を開く様子を見る」「学級で育てている朝顔の様子を観察する」「先の部分を指で指して確認する」「あやとりの紐をほどいたことを想起する」などの活動を通して、文章で表現されていることを読み取れるようにする。 ○時間的な順序を表す「そして」については、まだ理解できる必要はないが、つなぎ言葉として目を向けられるような声かけをしていく。 ◇文の中における主語と述語の関係に気付いている。【知識・技能】（発言・観察）

4	○はすのつぼみの特徴と開花の様子を音読や話し合いを通して、朝顔とも比較しながら読み取る。	○役割を代えて繰り返し音読をすることで、文によって役割が違うことに気付けるようにする。 ○ワークシートのマスの部分をあさがおのときよりも増やし、指示語にも着目できるようにする。 ○『ひらいたひらいた』を歌った」「学級で睡蓮を育てた」などの活動を想起し、文章で表現されていることをイメージできるようにする。 ○「ふくらんだ」「さまざま」「ほうこう」などの難解な言葉を理解できるよう「頬を膨らます」「それぞれの家の方向を指さす」などの動作を行う。 ○実物や模型の観察で、朝顔と花のつくりが違うことに気付けるようにする。 ◇「読むこと」において事柄の順序を考えながら、大体的内容を理解することができる。【思考力、判断力、表現力等】（発言・観察）
5	○ききょうのつぼみの特徴と開花の様子を音読や話し合いを通して、朝顔やはすと比較しながら読み取る。	○はすのときより、ワークシートの記述部分を増やし、説明の順序や文末表現の特徴に気付くことができるようにする。 ○はすとききょうは膨らんで見える様子が似ているので、風船と比べたり実際のつぼみや模型に触れたりして見ることで、特徴を感じ取れるようにする。 ○「問い」と「答え」についてはどの文か全体で押さえるが、「つぼみ」「咲く過程にあるつぼみ」「花」の部分については、自分たちで探せるよう助言する。 ○3つの花のつぼみの共通点や相違点について、次時でさらに話し合うことを伝え、関心を持てるようにする。 ◇「読むこと」において事柄の順序を考えながら、大体的内容を理解することができる。【思考力、判断力、表現力等】（発言・記述）
6	○これまでのつぼみについての説明の共通点・相違点を整理する。 ・「とい」と「こたえ」が3かいつつでてくる。	○黒板に写真と表を示し、共通点を理解しやすいようにする。表は穴抜き形式の記入が簡単なものを使用する。また、動画を視聴し、相違点にも目を向けることができるようにする。 ○教師と児童、二人組、列ごとなど、組み合わせを

	・せつめいのじゅんがおなじ。 ○「とい」と「こたえ」の文章形式を確かめながら音読する。 ○本文のつぼみの説明されている順番について考える。	変えながら、繰り返し読むことで、文によって役割が違うことに気付くことができるようにする。 ○事例の順の理由に正解は出さないが、順序には意味があることやこれから作っていく自分のクイズブックも紹介する順番を変えるなどの工夫ができることを伝える。現段階では難しい内容であるので、そのときの実態によっては実施しない。 ◇語のまとまりに気を付けて音読している。【知識・技能】（発言・観察）
7	○もっと知りたいと思ったつぼみとその理由を、「わけをはなそう」で学んだ「どうして(なぜ)か」というと「からです。」の言い方を使って説明する。	○話型を提示し安心して話せるようにするが、伝え方は工夫してもよいこととする。 ○2人組で伝え合う。全体の前でも紹介できる児童には、発表させる。発表は、あさがお→はす→ききょうの順で行う。発表の前に皆でその花を説明している部分を音読することで、本文の内容を確認できるようにする。 ○今までの読み取りを生かして、教科書にのっていないつぼみについての文を次時から読んでいくことを伝え、興味を高められるようにする。 ◇興味をもったつぼみを選び、理由とともに伝えようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】（発言・記述）
8 (本時)	○教師が提示したつぼみについての資料を読み、説明に必要な箇所に色ごとのサイドラインを引く。	○本文と同じ構造の資料を用意し、今までの学習を生かして読み取っていけるようにする ○今までと同じ方法でサイドラインを引く。必要に応じ、ギガタブの資料は補助線が入っているものも用意し、必要に応じて使えるようにする。 ○サイドラインを引く活動を中心とし、ワークシートは穴埋め式など簡単なものを用いる。 ○実際の花や模型や写真を提示し、イメージをつかみやすいようにする。 ◇「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。【思考力、判断力、表現力等】（観察・記述）
9	○あとがき(学習の感想)・奥付け・表紙を綴じ、「つぼみクイズブック」を完成させ	○あとがき(学習の感想)には、第1時にワークシートに書いた「しりたいこと」「こんなくイズブックにしたいな」について、学習を進めてきてどうで

	る。 ○早く終わった子は、ギガタブに教師が用意した資料や植物の本を読み、ページを増やす。	あったか考えて書くよう助言する。 ○ギガタブの資料だけでなく、植物の本コーナーの本や図鑑にも興味が向くよう声をかける。 ○ギガタブの資料は児童の様子によっては「つぼみ」「咲く過程にあるつぼみ」「花」以外の説明が入っている文章も用意する。説明に必要な内容を読み取れば非常に高い読解力があると評価できるが、現段階では資料が難解にならないよう配慮する。 ◇興味をもって本や資料を読むことができる。【主体的に学習に取り組む態度】（記述・観察）
課外	○ワークシートに説明となる絵を描いたり、表紙の絵を描いたり、興味のあるつぼみについて調べてページを増やしたりする。	○絵を描くことが苦手な児童は、絵のコピーを貼って、色塗りをしてもよいこととする。
10	○完成したクイズブックを友達に紹介する。	○交流する際に気を付ける点を確認する。 ○花の種類を問いかけたり、本の写真を見せて紹介してもよいことを伝える。 ◇興味をもって、友達の作品や本や資料を読んだりすることができる。[主体的に学習に取り組む態度]（発言・観察）

6 本時の指導（8／10 時間）

（1） 本時の目標

○「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。

[思考力、判断力、表現力等C(1)ア]

（2） 本時の展開

主な学習内容と活動	指導や支援の手立て（◇評価）
1 教師から配付されたつぼみについての文を音読する。	○教材文と同じ構成のつぼみの特徴と開花についての文をギガタブ上で配付しておく。 ○スムーズに音読できない児童がいれば個別指導する。
2 本時の学習課題を確認する。	あたらしい つぼみの ひみつを よみとろう。

3 資料から必要な箇所にサイドラインを引いて読み取り、丸シールを貼ったワークシートに説明を書いてクイズブックの新しいページとすることを確認する。 4 サイドラインを引きながら読み取りをする。 ・「これは、～でしょう。」のぶんが「と」だよ。 ・「これは～です。」のぶんが「こたえ」だよ。 5 発表ノートのサイドラインを引いたページを提出する。提出が終わった児童は、ワークシートに書き始める。 6 サイドラインを引いた場所とワークシ	○学習の流れを意識できるよう、拡大した学習計画表を示す。 ○「問い」に青、「答え」に赤のラインを引く。「つぼみの特徴」(黄色)「開き方」(緑)、「花の特徴」(ピンク)についてもサイドラインを引くが、対応する写真をその色で囲んでおき、読み取りのヒントとなるようにする。あらかじめ数本のラインが引いてある資料もギガタブ上に添付し、参考にしてよいこととする。 ○前時までの学習の履歴を掲示しておき、活動の参考となるようにする。 ○発表ノートでは、サイドラインの色が漢字で示されているので、似た色と間違わないように、掲示物を用意する。 ○サイドラインを引いた箇所が適当であったのかについては、授業後にも発表ノートで提出されたものを確認し、評価する。 ○ワークシートは、本文を読み取ったときと同じ形式のワークシートを用いる。サイドラインを引く活動がメインであるため、ワークシートは簡単に記入できるものにする。 ○ワークシートの文頭には前時に色別の丸シールを貼っておき、写真やラインを引いた文と対応させることや文頭を1マス下げるきまりを理解する助けとなるようにする。 ○ワークシートの記入が終わった児童は、同じ形式のほかのつぼみについての文章にサイドラインを引き読み取っていく。 ○画面を提示し、大事な箇所について確認
---	--

ートの記述を全体で確認する。友達の意見を参考に、サイドラインを引いた場所やワークシートに書き写した場所を見直す。 ・ゆりは、さきのほうからわかるのが、ききょうとにっていたよ。 ・でも、ききょうは5つにわかれていて、とちゅうがつながっていたよ。 7 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。 ・ほかのつぼみについてのほんもよんでみたいな。 ・はっぴょうのときは、くいずのように、つぼみのなまえをあててもらいたいな。	する。 ○実際の花や模型や写真を提示し、イメージをつかみやすいようにする。 ○「問い」と「答え」があることやつぼみから花になることは教科書の文と共通しているが、花によってつぼみや開き方が違っていることに気付くことができるよう助言する。 ○教科書に出てきたつぼみとの類似点に気付いた児童がいれば意見を聞く。 ◇「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。[思考力、判断力、表現力] ○大事な箇所を読み取る力があれば、教科書からだけでなく様々な生き物の本から知識を得ることができることを伝える。 ○学習計画表の振り返りの欄に記号で丸をする。感想を書いてもよいこととする。 ○次時は、「植物の本コーナー」の本からも調べてよいこと、本を紹介するときには、絵や写真を見せて問題を出すなど様々な工夫ができることを伝え、意欲を高められるようにする。
--	--